

- こうべまちづくり会館この1年 (P.1、2)
- <震災15年特集>阪神・淡路大震災を語り継いで その3 (P.3)
- まちづくりコンサルタント派遣報告会のご案内 ほか (P.4)

発行：神戸市立 こうべまちづくり会館

バックナンバーはこちら <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp/matisen/>

こうべまちづくり会館この1年

まちづくり会館は、平成5年11月15日にオープンして以来、住民主体のまちづくりを進める拠点施設としてご利用をいただいています。また、「まちづくり協議会」などへの専門家派遣や、まちづくりについて気軽に学べる「まちづくり学校」を開催するなど、「住民主体のまちづくり」をサポートする事業を展開しており、今後とも、市民のみなさんの主体的なまちづくりを応援していきます。



■こうべまちづくり学校

「こうべまちづくり学校」は、安全・安心で、市民が主役のまちづくりを進めるために“協働と参画のまちづくり”について、学び考える場を目指しています。これからの地域のまちづくりを担えるよう、まちづくりに対する関心を高め、幅広いテーマに対応した総合的でわかりやすい内容としています。21年度は、延べ218人が受講、うち173人の方が修了されました。

◆**基礎講座** 神戸の歴史やまちづくりのルールづくり、景観、防災・防犯などまちづくりに関する基礎的な内容について学ぶもので、全5回の講義形式で実施しました。



◆**専修講座** 各コースに分かれて、まちづくりについてより深く専門的に学ぶもので、21年度は、まち歩き、ワークショップなど7コースを実施しました。

- Aコース：地域活動のファシリテーション
～よい話し合いのために身につけておきたいこと～
- Bコース：「安全で安心なまちをつくる」
防災コミュニティづくりコース
- Cコース：「安全で安心なまちをつくる」
防犯コミュニティづくりコース
- Dコース：まちなみゼミ
- Eコース：まちづくり実践ゼミ
- Fコース：まち歩き実践ゼミ
- Gコース：まちに刻まれた土木を訪ねる



◆**特別講座** まちづくり学校の卒業生を対象とした講座です。21年度は、「まちづくりをきわめる～ここでしか聞けないプロの秘訣～」と題して、まちづくりの第一線で活躍する専門家の話を聞いた後、3つのテーマのゼミに分かれて少人数での討論を行いました。

◇**卒業** 「基礎講座」の修了と「専修講座」のうち2コースの修了で卒業となります。一度卒業した方も再度受講することができます。21年度は22人の方が卒業されました。



■小学校総合学習「まち発見プログラム」

小学校3・4年生を対象に、総合学習の時間を利用して、「私たちのまち発見」と題した出前授業を行っています。この取り組みは、神戸市建設局主催の「みちの学校」の一環として行っているもので、校区の特色に応じたテーマを設定し、子ども達に、まちの魅力をわかりやすく伝えるとともに、まちにある様々な施設などの役割について考えるきっかけとすることをねらいとしています。自分たちが住むまちの歴史や成り立ち・特色、まちに点在する面白いもの・人々の安全を守るためのものなどを「スライド授業」と「まち探検」を通して学びます。21年度は10校、623人の児童が参加しました。



※実施校

- 鈴蘭台小、長田南小、桜の宮小、多聞南小、浜山小、宮本小、大池小、桜が丘、本庄小、美野丘小（実施順）

4月から、まちづくり会館の開館時間が午前9時30分となります。

■ 専門家派遣等

住民主体のまちづくりや、震災からの復興を支援するために、「専門家の派遣」や「まちづくり協議会への活動助成」を行ってきました。21年度は、派遣48件、活動助成17地区となっています。

一連の活動内容は毎年5月に、「まちづくりコンサルタント派遣成果報告会」で発表されます。派遣した20社近いコンサルタントが前年の活動報告を行い、各地区における様々な事例を知ることができます。

21年度の「コンサルタント派遣成果報告会」は、5月13日（木）に開催します。詳しくは、4ページをご覧ください。

■ 復興まちづくり支援事業15周年総括座談会

阪神・淡路大震災の被災地域における住民主体の復興まちづくりや住宅再建を支援するために創設された「復興まちづくり支援事業」が15年を迎えるのを機に、兵庫県まちづくり技術センターと共催で「復興まちづくり支援・私たちは何ができたか」と題した座談会を2月に開催しました。座談会には、支援に深く関わったまちづくりの専門家や行政担当者等をお招きし、復興まちづくり支援が果たした役割や成果、今後のまちづくりの展開などについて語り合いました。

■ まちセン研究ネット

「まちづくりセンター研究ネット(まちセン研究ネット)」は、市民、専門家、市職員などによる様々な自主的まちづくり研究団体とまちづくり会館が連携するネットワークとして平成15年度に発足しました。

現在は、12グループが、まちづくり会館等を拠点に活動を行っており、今後も各グループとの共同研究や研究成果の発信などを行っていきたいと考えています。

※研究ネットワーク参加グループ

水谷ゼミナール/神戸防災技術者の会(K-TEC)/いきいき下町推進協議会/プランナーズネットワーク神戸/阪神白地まちづくり支援ネットワーク/こうべまちづくりワークショップ研究会/西神ニュータウン研究会/空間像研究会/こうべまちづくりアーカイブプロジェクト/NPO法人都市災害に備える技術者の会/技術者のための国際関係研究塾/東アジアまちづくり研究会

ーまちセンフェローシップ制度を創設しますー

こうべまちづくり会館では、様々な立場でまちづくりに携わる方々の相互連携と情報交流を一層促進するため、「まちセンフェローシップ制度(まちセン協力会員制度)」の創設準備を進めています。

フェローに登録されると、会館利用にあたり様々な特典サービスを受けることができます。詳細が決まり次第、改めてお知らせいたします。

■ 会館施設のご利用ありがとうございます

21年度は、約11万人の来館者がありました。

◆6F 会議室

定員22名と18名の2室、間仕切りを外すと40名までご利用になれます。

◆4F まちづくり情報センター

4Fのライブラリーでは、図書や行政資料の閲覧ができます。



◆4F コミュニティ相談センター

市民参画推進局が運営しており、自治会など地域コミュニティの会報印刷サービスや、運営などについての相談業務を行っています。

◆3F 多目的室

会議・研修・交流行事などにご利用いただいています。11月には、モンテリオール大学ユネスコ講座「景観と環境デザイン」に関する国際ワークショップ「WAT_Kobe Japan 2009」を約2週間にわたり開催しました。



◆2F ホール

90名収容のホールは、シンポジウムや講演会など様々な催しにご利用いただいています。また、「こうべまちづくり学校」の主会場となっています。

◆1F インフォメーション・オープンギャラリー

インフォメーションでは、会館の案内や市関連のリーフレットの配布、広報ビデオ放映をしています。

オープンギャラリーでは、「震災復興航空写真展」や「QTVRで見る震災復興の今」をはじめ、市まちづくり関連事業などの紹介を行っています。

◆B1F ギャラリー

178㎡のギャラリーでは、絵画、書、写真などの展覧会にご利用いただくほか、定期的に企画展も開催しており、21年度は7～8月に「橋本邦彦 突々和夫二人展」を、11月に「長尾 和 展」を開催し、多数のご来場をいただきました。



※各貸室は、ご利用の3ヶ月前(ギャラリーは1年前)から予約できます。詳しくはお問い合わせください。また、まちづくり関係のご利用は、それ以前でも受付できる場合がありますので、ご相談ください。

※2F・3F・6Fでは、インターネット回線(有線)が無料で利用できるようになりました。詳しくはお問い合わせください。

〈震災15年特集〉

阪神・淡路大震災を語り継いで その3

～神戸防災技術者の会 (K-TEC) の活動から～

5. 避難所の生活は

震災直後は、誰が何処に避難しているのか、何人の人たちが避難しているのか、何もわからない混乱した状況から始まりました。学校などでは、建物の安全性が確認されないまま、避難してきた人たちが塀を乗り越え、鍵を壊してなだれ込んだ所もありました。

職員も被災しており、交通機関が途絶した中、助けを求め腕をつかむ市民の手を振り払い、出勤することが人間として正しい選択であるか悩みながらも、当日41%の神戸市職員が職場に駆けつけ、救援物資の配布、応援に駆けつけてくれた他の自治体の給水車の先導などに走り回っていました。幼子が物言わぬ両親にすがりつき、泣き叫ぶ様にどのような慰めの言葉も掛けられないむなしさを感じながら、遺体の安置や名前の確認、家族への報告、納棺などを行っていました。マニュアルなど役に立たない混乱のなか、職員には感情を押し殺し、黙々と目の前に突きつけられた職務をこなすことしか出来なかったのです。

倒壊家屋の中から救出された安堵感と全てを失った悲壮感が入り混じる中、遅れて避難してきた人は廊下や階段に座り込むことしか出来ず、さらに校舎内にすら入れない人はグラウンドのテントや車の中に避難していました。身体の不自由な方やお年寄りなどの要援護者に対する配慮も何も出来ませんでした。

夕刻から夜にかけて届いた避難者数の半分にも満たないおにぎりや弁当、そして毛布などを前にして、どのように配分するか戸惑う中、震災前からふれあいのまちづくり協議会活動などの地域活動に取り組んでいた人達を中心となり、幼い子供や身体の弱った人達から優先的に配布をする措置が取られた避難所が多くあったのです。

それ以後、学校園に限って言いますと、混乱から秩序をもった避難所づくりへと、避難住民自らの発意や先生方の指導により、約2/3の避難所に自治組織が結成され、自主的な避難所運営が行われましたが、残りの避難所の運営は行政が主体とならざるを得ませんでした。避難所の運営は行政が主体となるとどうしても「公平に、公正に」の気持ちが先行し、避難者の個別事情に対応し難い面があり、むしろ住民主体の避難所の方が自立をしようとする気持ちを強く持ち、お互いが助け合う姿勢を表した運営が行われていました。

学校の先生方にリーダーになっていただいた避難

所も数多くありました。先生方の献身的な姿勢とそれに対する畏敬の念から秩序ある運営がなされていましたが、震災で家族を亡くした子供たちの心のケアや教育の継続に力を注いでいただく上で、あまりにも先生方に頼りすぎていたことは問題点として残っていると考えます。

また、500人以上の方々（最大数3,500人超）が学校という限られた空間で24時間生活するわけですから、想像もつかない大変な生活でもありました。横になるのが精一杯の空間に老若男女が入り混じって寝るなど、プライバシーなど全く無視された生活、夜泣きをする乳飲み子を抱える母親は寒い校庭に出てあやし、お年寄りはトイレに行く回数を減らそうと水を控え、そのため体調を崩すなど制約された生活が続きました。水道が被災したため水洗トイレが機能しなかったことも困ったことの一つでした。朝と昼はパンのみ、夜は冷たい弁当と限られた食事ではありますが、水で流せないトイレはたちまちウンコの山になりました。プールの水や川の水で流すにしても限界はあり、避難所は異臭に包まれていました。先生方や地域の役員が掃除をする姿を見て、避難者は当番を決めて掃除をしたり、校庭に穴を掘って埋めるようになり、子供達もそれを手伝うようになりました。仮設トイレが設置されるまで、そして水道が復旧するまでの間の生活は、都市の何不自由のない生活に慣れてきた市民には想像も出来ないことだったのです。冬場は風邪、夏場になると食中毒、伝染病などへの懸念がありましたが、被災者の自助努力、駆けつけてくれた延べ130万人のボランティアによるケア、自治体職員延べ22万人の支援のおかげにより、大事に至ることは防げました。そして、ライフラインの復旧や被災家屋の自己補修、仮設住宅約3万戸の建設が完了する8月20日までの7ヶ月間にわたる避難所生活を乗りきることが出来たのです。

震災を経験した子供達は？

187名の生徒と34名の先生方が犠牲となり、多くの家族や友達を失い、心に大きな傷を負った子供達でしたが、避難所で彼らは彼らなりの手伝いをしながら、震災を乗り切ってくれました。今彼らは成人し、彼らの目から見た震災を発信し、中国をはじめとする自然災害の被災地にいち早く駆けつけ、ボランティア活動に携わっています。その姿に、当時も今も勇気づけられています。

神戸防災技術者の会 (K-TEC) 片瀬範雄 (元神戸市職員)
ホームページ <http://www.k-tec117.com/>

まちづくりコンサルタント派遣報告会のご案内

5月13日(木) 午後1時から
こうべまちづくり会館2階ホール

まちづくり会館では、まちづくり活動を行う「まちづくり協議会」等に対して、「まちづくり専門家派遣制度」により専門家を派遣し、技術的・専門的な支援を行っています。

この制度により、平成21年度に派遣された専門家(まちづくりコンサルタント)が、各地区の活動状況や自身の果たした役割などについて発表します。各地のまちづくりの状況を知るまたとない機会ですので、奮ってご参加ください。



平成20年度報告会の様子

お申込・お問い合わせは、会館(078-361-4523)まで

まちづくり会館 展示のお知らせ

1階オープンギャラリーの予定

期 間	テーマ・内容	主催者
4/1(木) ~ 4/13(火)	神戸まちなみ緑花コンクール	神戸市公園緑化協会
4/15(木) ~ 4/27(火)	神戸らしい都市景観の形成をめざして	都市計画総局景観室
4/29(木) ~ 5/11(火)	神戸景観・ポイント賞受賞作品	都市計画総局景観室
5/13(木) ~ 5/25(火)	有馬温泉の魅力発信	有馬ふれあいのまちづくり協議会
	須磨離宮公園	神戸市公園緑化協会
5/27(木) ~ 6/8(火)	神出地域パネル展	神出町自治協議会
6/10(木) ~ 6/29(火)	土砂災害防止月間パネル展	国土交通省

※展示期間が変更になる場合があります。

地階ギャラリーの予定

期 間	テーマ・内容	主催者
4/1(木) ~ 4/6(火)	水彩・パステル グループ合同展<水彩・パステル>	グループWa
4/8(木) ~ 4/11(日)	第5回書友クラブ書道展	書友クラブ
4/15(木) ~ 4/20(火)	第55回木曜会作品展<油彩・水彩>	木曜会
4/22(木) ~ 4/27(火)	第16回いくた15人展<油彩>	いくた15人会
4/29(木) ~ 5/4(火)	埜本勝司個展<油彩・日本画>	埜本勝司
5/6(木) ~ 5/11(火)	元町の芸術家たち展Ⅷ<油彩・水彩等>	神戸元町商店街連合会
5/13(木) ~ 5/18(火)	木彩会 洋画作品展<油彩・水彩>	木彩会
5/20(木) ~ 5/25(火)	新樹会 水彩画展	新樹会
5/28(金) ~ 6/1(火)	丹水会展<水彩>	丹水会

※初日、最終日は展示時間が変更になる場合があります。



こうべまちづくり会館

開館時間：午前9時30分～午後6時(水曜日休館)
場 所：元町商店街4丁目西端の南側角
地下鉄海岸線「みなと元町駅」西1出口から北へ1分
神戸高速「花隈駅」東口から南へ3分
「西元町」東口から東へ5分
JR・阪神「元町駅」西口から西へ8分
〒650-0022 神戸市中央区元町通4丁目2-14
電話：078-361-4523 FAX：078-361-4546
ホームページ <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

コミュニティ相談センター(まちづくり会館4F)

自治会の会報等の印刷サービス、運営等の相談
受付：午前9時30分～午後5時30分(水曜日休館)
ただし、印刷は5時まで
電話・FAX：078-361-4565

4月から、まちづくり会館の開館時間が午前9時30分となります。